

2022年度・公式規則変更予定報

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会



公益社団法人日本アメリカンフットボール協会競技規則委員会では、現在2022年秋季公式戦から適用される公式規則の変更作業を実施中です。

この「2022年度・公式規則変更予定報」は、本年の公式規則変更を予定している主要項目に関して概要を説明し、各競技団体の早めの対応を可能にするために発行されるものです。本予定報に記載している内容は、今後の作業により追加あるいは変更の可能性があります。

*正式には本年7月上旬に発表予定の「2022年度・公式規則変更内容・決定報」で公示いたします。

注*: 当委員会は、NCAA(全米大学体育協会)の競技規則変更内容をベースに変更作業を行っています。

NCAAでは、4月上旬に規則変更内容が決定され、その後NCAAの競技規則書発行時に、編集上の変更項目等が織り込まれます。本予定報は現時点の情報をもとに、競技規則委員会で決定されたものです。決定報では、改訂後のNCAA競技規則書を反映し、競技規則委員会が決定したものを公示いたします。

2022年度・公式規則変更予定主要項目

2022年度の公式規則変更として予定している主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる予定の公式規則・公式規則解説書における主たる「篇章一条」を表します。

(1) 必要な装具の規格の変更

- ☆ 従来、パンツおよびニーパッドは膝を覆っていることが求められ、ソックスの長さについての規定はなかった。
- ★ 本年より、パンツおよびニーパッドは膝を覆っていることが推奨され、ソックスあるいはレッグカバーは、靴からパンツの最下部まで全域を覆っていなければならないと規定される。ソックスあるいはレッグカバーは重ねて着用することが許され、同一チームのプレイヤーは、同一スタイル、同一色を着用しなければならない。(例外: 負傷部の保護あるいは負傷の予防のための、下腿に着用する改造されていないニープレス、テープまたはバンデージ。裸足のキッカー。)

(1-4-4-d および h 変更)

(2) ボールがデッドとなる条件の変更(スライディングを開始したプレイヤー)

- ☆ 従来、ボールキャリアが明らかに足からスライディングを開始した地点でボールデッドとなることが規定されていた。
- ★ 本年より、ボールキャリアが足からスライディングを装うあるいは開始するふりをした場合もその地点

でボール デッドとなる。

(4-1-3-r 変更)

(3) フェア キャッチのシグナルを出したプレーヤーによる不正なブロックまたは接触に対する罰則の変更

- ☆ 従来、フェア キャッチのために有効なまたは無効なシグナルをし、ボールにタッチしなかったプレーヤーによるブロックまたは接触の反則に対する罰則は 15 ヤードであった。
- ★ 本年より、フェア キャッチのために有効なまたは無効なシグナルをし、ボールにタッチしなかったプレーヤーによるブロックまたは接触の反則に対する罰則は 10 ヤードとなる。ただし、パーソナル ファウルを伴う場合は 15 ヤードの罰則であり、ひどい反則者は退場または資格没収となる。(6-5-4 罰則 変更)

(4) 当初の無資格レシーバーによる不正なタッチに対する罰則の変更

- ☆ 従来、当初の無資格レシーバーによる正当なフォワード パスへの不正なタッチの反則に対する罰則は、プレビアス スポットから 5 ヤードであった。
- ★ 本年より、当初の無資格レシーバーによる正当なフォワード パスへの不正なタッチの反則に対する罰則は、プレビアス スポットから 5 ヤード、かつロス オブ ダウンを伴う。(7-3-11 罰則 変更)

(5) 後半のターゲティングの反則による資格没収に対する検証の規定の追加

- ☆ 従来、インスタント リプレーを採用する試合において、後半に発生したターゲティングの反則がビデオレビューによって確認(コンファーム)された場合、次の試合の資格没収の妥当性に対する試合終了後の検証は認められていなかった。
- ★ 本年より、インスタント リプレーを採用する試合において、後半に発生したターゲティングの反則に対して、当該チームが所属する競技団体は、当該試合担当の審判組織の検証によって、次の試合の資格没収の妥当性を確認することができる。その検証の結果、審判組織がそのプレーヤーを資格没収とすべきではなかったと判断すれば、その場合のみ、競技団体は出場停止を取り消すことができる。(9-1-3 および 4 罰則 追加)

(6) 腰より下へのブロックの規定の変更

- ☆ 従来、キックを除くスクリメージ ダウンにおけるチーム確保変更前の A チームのプレーヤーは、ニュートラル ゾーンから 5 ヤードまでの位置に限り、スナップ時のボールの方向に対してではない、相手の正面の方向からの腰より下へのブロックが許されていた。また、規定の条件を満たす A チームのプレーヤーは、規定の条件においてスナップ時のボールの方向に対して等の腰より下へのブロックが許されていた。
- キックを除くスクリメージ ダウンにおけるチーム確保変更前の B チームのプレーヤーは、ニュートラルゾーンの前後 5 ヤードでサイドラインまで延長されたエリアのみで、相手の正面の方向からの腰より下へのブロックが許されていた。
- ★ 本年より、キックを除くスクリメージ ダウンにおけるチーム確保変更前の腰より下へのブロックの規定は以下のとおりとなる。
 - a. チーム確保変更前の A チームのプレーヤー
 1. 最初の位置が完全にタックル ボックス内に入っているラインマンは、タックル ボックス内の

最初のチャージで、正当に腰より下へのブロックをしてもよい。このとき、ニュートラル ゾーンを1ヤード越えた地点まではタックル ボックスの中とみなす。

最初のチャージの後、ボールがタックル ボックスから出るまでの間、タックル ボックスの中で相手の正面の方向から腰より下へのブロックをしてもよい。

2. スナップ時にタックル ボックスの中で静止しているバックは、ボールがタックル ボックスから出るまでの間、タックル ボックスの中で相手の正面の方向から腰より下へのブロックをしてもよい。
 3. その他のすべての A チームのプレーヤーは腰より下へのブロックをしてはならない。
- b. チーム確保変更前の B チームのプレーヤー
1. スクリメージ ラインから 1 ヤード以内、かつタックル ボックスの中で、スナップ時に静止している B チームのプレーヤーは、最初のチャージで相手の正面の方向から正当に腰より下へのブロックをしてもよい。
 2. その他のすべての B チームのプレーヤーは、ボール キャリアに対する場合を除き、腰より下へのブロックをしてはならない。

(9-1-6 変更)

(7) スポーツマンらしからぬ行為の反則に対する罰則の変更

☆ 従来、フリー キックあるいはニュートラル ゾーンを越えたスクリメージ キック中の A チームのプレーヤーによる、および正当なフォワード パス プレー中の B チームのプレーヤーによるスポーツマンらしからぬ行為の反則に対する罰則は、プレビアス スポットから 15 ヤードであった。

★ 本年より、フリー キックあるいはニュートラル ゾーンを越えたスクリメージ キック(フィールド ゴールの試みを除く)中の A チームのプレーヤーによるスポーツマンらしからぬ行為の反則に対する罰則は、プレビアス スポットから、またはプレー後のデッド ボールが B チームの所属となる地点のいずれかから 15 ヤードとなる。正当なフォワード パス プレー中の B チームのプレーヤーによるスポーツマンらしからぬ行為の反則に対する罰則は、最後のラン エンドがニュートラル ゾーンを越え、かつそのダウン中にボール確保の変更がない場合、最後のラン エンドから 15 ヤードとなる。パスが不成功、インターセプト、あるいはダウン中にチーム確保の変更があった場合、罰則はプレビアス スポットから 15 ヤードとなる。

(9-2-1-a-1 罰則 変更)

(8) ディフェンスによるホールディングと手または腕の不正な使用の反則に対する罰則の変更

☆ 従来、ディフェンスによるホールディングと手または腕の不正な使用の反則に対する罰則は、10 ヤードまたは 15 ヤードであった。

★ 本年より、ディフェンスによるホールディングと手または腕の不正な使用の反則に対する罰則は、他の公式規則に抵触しない限り、10 ヤード、かつ自動的に第1ダウンとなる。

(9-3-4-c~e 罰則 変更)

以上